



Steefel J 著

『嚥下障害のリハビリテーション：訓練と食餌計画の実際』

国立身体障害者リハビリテーションセンター

柴田 貞雄監訳

前 田 真 治／北里大学東病院リハビリテーション部 医師

食餌摂取機能は生命に直結している機能であり、生活の質を高める意味でも欠くことのできないものである。そこで、特に重症の成人の神経疾患や外傷患者にとって、この嚥下障害の諸問題はリハビリテーションの最終目標にもなりうる重要な問題となる。本書はこのような患者に対する Steefel J 氏の長年の経験に基づき臨床的立場から書かれたものであり、ともするとくじけてしまいそうな嚥下障害という難問に取り組む意欲をわきたたせてくれる。

著者の嚥下障害リハビリテーションの理念は患者の食生活を終生、どのように治療し保証してい

くかという長期的展望にある。

基礎的知識、評価、治療という一貫した流れで書かれており、その中で特に目を引くのはリハビリテーションプログラムを組み立てるに当たり、障害の内容、程度に応じて患者の満足度を踏まえながら柔軟かつ繊細に段階的なアプローチをしている点である。その際、その過程の隅々に至るまで、嚥下治療に伴う危険性を完全に阻止する対策が詳細に書かれているため、訓練を行なうに当たって実際に助かる。

嚥下障害のリハビリテーションの不可欠さと安全確保の必然性から、訓練は“嚥下治療士”とも

言うべき専門職が担当すべきと思われるが、著者はこの担当職種に“言語療法士 (ST)”を想定している。さらに、これに携わる医師、栄養士、作業療法士などの関連職種の共同がスムーズなチームとして機能するように役割分担などについて合理的に理解されやすく書かれている。

訳者の矢守夫妻はリハビリテーション医と ST との両者の知識を併せもち、この訳書の付録に、リハビリテーション医の立場から安全確保のための救急法と、さらにわれわれ日本人の食生活に合った食品、調理法、訓練器具について追加執筆されたことはすぐにも役だつ情報を与えてくれる。この分野の成書は少なく、嚥下障害に携わる医療従事者にとって実用的なマニュアルと思われる。

(B 5 判, 150 ページ, 定価 3000 円, 1988 年, 協同医書出版社刊)